

平成 27年度

秋 の 安 全 衛 生 大 会



 北央道路工業株式会社

日 時 平成27年 10月17日 (土) 午後 1時30分

場 所 栗沢市民センター(TEL : 0126-45-2128)

岩見沢市栗沢町北本町 1 6 8 番地 3

大会次第

1. 開会の辞 13:30

2. 北央道路工業(株) 社長挨拶 13:30~13:40
北央道路工業(株) 代表取締役社長 澤口 二郎

3. 労働基準監督署による全道一斉監督について 13:40~13:55
北央道路工業(株) 安全環境本部 鎌田 理

4. 講演 13:55~14:25
こぶし建設(株) 総務部 参与 天野 正輝 様
演題 『交通事故防止について』

5. 講演 14:25~15:10
有限会社 ケイアンドエイ 米口 晶三 様
演題 『現場の安全』

6. 大会決議宣言
北央道路工業(株) 札幌工事事務所 前田 友行 15:10~15:20

7. 閉会の辞 15:20

安全コラム

～・・・『3時間後は事故に』・・・～

普段行っている危険予知を一步進めた「リスク」の話をしましょう。
高速道路で車が故障して、路側帯に駐車したとしましょう。乗員はすぐに車から降りてガードレールの外に退避しなければいけません。他の車に追突されるからです。でも大抵の人は、のんきに社内にとどまっています。

そんな時、追突してくる確率は5万台に1台ということを知ると1割くらいの人は降りてきます。でも残りの9割は大丈夫と思ってそのまま残ります。

そこでさらに、この高速道路の交通量は1日に40万台であることを知ると、驚くことに全員即座に降りてくるそうです。ちょっと計算すればわかります。この条件ならば3時間駐車していれば1回は追突されることになるからです。こんな数字を出されたら誰だって3分と乗ってたくなくなります。

皆さんはどうでしょう？

人の対応がこれだけ異なるのは、リスクの大きさと程度を具体的に自覚したか否かによるものです。車の中で後続車に追突された自分を想像すれば答えは簡単です。

人間は、嫌なものからは自然と目をそらしがちになりますが、
ために事故にあった自分、悲しむ家族、生活が行き詰った様子など、
災害がどれだけの物を奪うかを想像してみてください。
そうすればおのずと不安全行動はなくなり、仲間の安全も思いやる事が出来るのではないのでしょうか…



大会決議文

我々、北央道路工業株式会社及び協力会社一同は、労働災害の根絶、そして交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組み、安全意識の高揚と、より安全で健康な職場環境を確立する為、本日ここに安全大会を開催いたしました。本大会を契機に新たなる決意のもと、労働災害・交通事故の絶滅に努め、「無事故無災害」を目標にさらに邁進することをここに誓うものであります。

以上、宣言いたします。

MEMO

